

学校教育目標	『岩崎』のまちとともに未来を拓き 社会に尽くせる人になるために やさしい心(徳) 確かな学力(知・体) 自主自律の精神(公・開) を身に付けます				
	創立 79 周年	学校長 内田 克弥	副校長 岡澤 貴雅	2 学期制	一般学級: 20 個別支援学級: 3
学校概要	児童生徒数: 730 人 主な関係校: 桜台小学校・岩崎小学校・保土ヶ谷小学校・瀬戸ヶ谷小学校				

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	岩崎中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
<p>○高い「自尊感情」と「自己有用感」をもって生活し、自ら課題解決を進めることのできる力 (『知識及び技能』『思考力 判断力 表現力』)</p> <p>○「互いの違いを認め合う(自由服の精神)」ことのできる力 (『学びに向かう力 人間性等』)</p>	<p>岩崎中学校 桜台小学校 岩崎小学校 保土ヶ谷小学校 瀬戸ヶ谷小学校</p>	<p>自ら考え行動し、他者と協力・対話しながら、未来を切り拓く子ども</p> <p>・ブロック主幹会議を通して、小中間の年間行事の把握と各校の情報交換を密に行い、ブロック内の小中一貫教育をより一層、充実させる。 ・ブロック内の定期的な交流を通して、児童生徒の成長の様子が共有できる場を構築する。 ・児童生徒交流日を中一ギャップ解消のよい機会と捉え、授業および部活動見学、中学校生活ガイダンスを実施する。</p>

中期取組目標	<p>○社会とのつながりを意識し、自ら学び、課題を見つけ、他者と協働して、様々な場面で自分たちの考えを「発信」ができる学びを進めていきます。 ・生徒たちが意欲的に取り組み、確かな学力(知識・技能 思考力・判断力・表現力 学びに向かう人間性)が身につく授業の構築。 ・社会とつながり、自らの考えを「伝えあい」「認めあい」授業、行事の推進。 ○互いの違いを認めあい、高い人権意識を有し、自ら責任ももった言動を取ることのできる生徒の育成に努めます。 ・学校教育全般に関して、「自由服の精神」の具現化を進めます。 ○学校・地域・家庭・関係諸機関と連携して、生徒の状況を把握するとともに、生徒の自己肯定感、自己有用感を高め、何事にも安心して臨める気持ちを育みます。 ・個に応じた指導を充実させ、生徒一人ひとりが「価値のある」「必要で」「かけがえのない」ことを実感し、学校を自分らしく過ごせる「場」とします。</p>
--------	--

重点取組分野	具体的取組
知 授業力向上	①個別最適な学びと協働的な学びの一体化を意識し、「記述」と「発表」や、「紙」と「デジタル」、「個」と「集団」のように、それぞれの特性を生かして併用する学習活動を展開し、学びの充実を図る。②視点を絞って相互の授業見学を行い、授業改善につなげる。
担当 学習指導部・教務部	
徳 人権教育	①『自由服の精神(互いの違いを認め合う)』を基盤とした教育活動を学校全体で展開するとともに、より実践的な人権の授業を実施する。②「平和学習」を3年間教科等横断的な学習の軸とし、2年生校外学習(東京)、3年生修学旅行(長崎)への取組を通して、自分たちが、今後どのように生き、どのような社会をつくっていくのかを考える。
担当 人権教育推進委員会	
体 健康教育	①新体力テストの結果をもとに、生徒一人ひとりが目標を定め体づくりを実践できるようにする。②生徒が主体的に心身ともに健康な生活を実践できるよう、外部講師やICTを活用し、学年に応じた保健教育を行う。③危険を予測、回避する力を身につけられるよう、計画的に安全教育を行う。
担当 保健指導部・保健体育科	
公 自分づくり (キャリア)教育	①総合的な学習の時間を活用し、社会参画や地域貢献の意識で「岩崎のまち」に関わる取組を展開する。②義務教育修了後の「自分」を思い描くために、第1学年・第2学年では勤労観・職業観の形成を目指す取組を、第3学年では卒業後の直近の進路選択に関わる取組を計画し、展開する。
担当 学習指導部	
いじめへの対応	①年3回の教育相談・個人面談や、年2回のY-Pアセスメント等を活用して、生徒の変化を丁寧に把握することで、いじめの早期発見と未然防止を行う。発生したいじめは組織で情報共有し、迅速に対応する。②横浜こども会議等において生徒が話し合う機会を設け、生徒が主体的にいじめについて考えられるようにする。③いじめ防止対策委員会を定期的に開催し、いじめに対する教職員の共通理解を深め、いじめ防止に組織的に取り組む。
担当 いじめ防止対策委員会	
人材育成・ 組織運営(働き方)	①各部署において、全員が主体的に行えるよう、長を中心に分掌の把握や担当の確認を行う。②メンターチームの活動において、ミドルリーダーが定期的に行う研修に、生徒指導や保護者対応のロールプレイなど取り入れるなど、より実践的で現場に生かせるような能力を育成する。
担当 教育課程委員会・メンターチーム	
情報教育	①ICT機器を活用し、個別最適な学びと、協働的な学びを効果的に行う。②日常的な端末の持ち帰りを推進し、生徒一人ひとりが自分で判断して、学習内容や学習方法を決定するなど、主体的な学びを促す。③各教科で計画的に情報モラル教育を実践し、自分で責任をもち、ICTをよりよく活用し、自ら考え、学習を進めていく生徒を育成する。
担当 学習指導部・教務部	
特別支援教育	①すべての生徒に「特別支援教育」の視点をもつ。②特別支援教育コーディネーターを中心に、全教職員が校内ハートフルにかかわり、校内ハートフルの有効活用を進めるとともに、個別のニーズを的確に把握し、特別支援教育の充実に努める。③合理的配慮の提供と指導内容や指導方法を工夫する。④個別支援学級と一般学級の生徒たちの交流を日常的に実施する。
担当 生活指導部・校内ハートフル委員会	
地域学校協働活動	①「学園通りコンサート」などを通して、学校(幼保・小・中・高)・家庭・地域との交流を深める。②地域学校協働本部やコーディネーターと連携、協働した「花いっぱい運動」を通して、学校運営への参画や連携強化、保護者や地域と学校が一体となった学校運営の改善と生徒の健全育成に取り組む。
担当 わがまちの学校づくり委員会	
ESDの推進	①生徒会が中心となり、広報誌で連載したり、評議会や各委員会を通じてSDGsに関連した取組を周知したりするなどして、全校生徒に対して可視化を図り、意識の向上を促す。
担当 教育課程委員会・特活指導部	